

芹ヶ谷公園の再整備を検討するにあたって実施した公園活用アイデアを考える「面白がる会」のレポートです。

このレポートは〔未来町田会議〕ホームページ <https://machida.life> 上で公表しています。



【レポート】町田を面白がる会「芹ヶ谷公園の未来を考える編」

2019年9月29日（日）14:00~16:30 @町田市立国際版画美術館

ショッピングビルが建ち並ぶ町田駅前から15分ほど歩けば、ホテルやカブトムシのいる豊かな森が広がっていることをご存知でしょうか？

その森とは、東京都町田市の「芹ヶ谷公園」。高低差のある谷の地形と元々の雑木を生かした、総面積15万㎡を超える広大な公園です。北西は小田急線の線路に面し、南はちょうど原町田3丁目・4丁目の境目、駅前の商店街が終わる辺りまで続いています。

南側には日本では数少ない版画専門の「町田市立国際版画美術館」があり、2019年10月からは、北側の端に「芹ヶ谷公園グラウンド」もオープン。街の中心地に近いこの大きな公園を、「町田の魅力の1つ」として、もう一度整備していこうという動きが始まっています。

1982年の開園以来、町田市民の憩いの場であり、毎日のように足を運ぶ人もいる芹ヶ谷公園の未来について、気にかけている町田っ子も多いことでしょう。

そこで、この公園の再整備にあたり、市民の皆さんと一緒に課題や使い方のアイデアを考えたいという思いから、町田市は今回のイベント「町田を面白がる会 -芹ヶ谷公園の未来を考える編-」を開催しました。



子どもからご年配の方まで、この公園を愛する大勢の人が町田市立国際版画美術館の講堂に集まったこの日の様子をレポートします！

「面白がる会」って？



唐品知浩（からしなともひろ）さん。オモシロガリスト。株式会社リクルートで営業を15年務め、2012年に退社後、株式会社リゾートネット取締役として『別荘リゾート.net』を運営・管理しながら、個人ホールディングス化を意識して不動産周りで多角的な活動を行なっている。合同会社パッチワークス アイデア係長、ねぶくろシネマ 実行委員長、YADOKARI 小屋部部长。

「面白がる会」というのは、オモシロガリスト唐品知浩（からしなともひろ）さんが全国各地で開催している「課題解決型アイデア出し」イベントです。

唐品さんはこれまで、お住まいの調布市で仲間と始めた「調布を面白がる会」を始まりとして、神田・日本橋・横浜・広島・京都・宮崎などのさまざまな地域や、不動産・働き方・多拠点居住・PTA・父親・恋愛離れなどの多岐に渡る見過ごせないテーマについて、参加者と一緒に面白がってきました。

他人の意見を否定しない。

難しい課題をポジティブに話し合う。

「面白がる」というと、何かちょっとふざけているように思う人もいるかもしれませんが、ところがここに、なかなか解決できないような社会課題や大きなテーマを考える際の、大事なポイントがあるのです。

唐品さん「面白がる、というのは、難しい課題に対して自分事として捉え、今までの慣例や常識に捉われず、たとえぶっ飛んだアイデアでもいいから『こうだったらいいな』というのを考えてみることです。

面白がる会は、17世紀頃のイギリスにあったコーヒーハウスをヒントに生まれたのですが、そこは入場料さえ払えば、階級や職業、年齢も関係なく、誰もが自由に対等に意見を言い合えた場所でした」

確かに、難しいことを会議室で難しい顔をして考えるよりも、カフェで友達と話すようにアイデアを出し合うことで、予想外の柔軟な発想が飛び出すかもしれません。

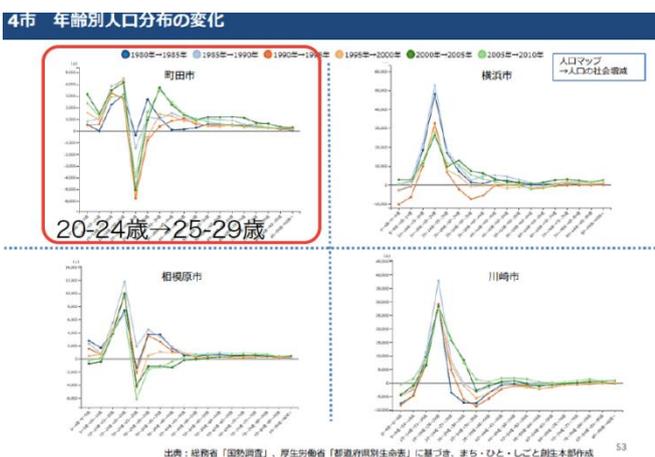
面白がる会の4つのルール

- ・人の意見を否定しない
- ・難しい言葉・専門用語を使わない
- ・偉そうにしない
- ・思いついたアイデアはどんどん発表



芹ヶ谷公園の未来を皆で考えるにあたり、この「面白がる会」は9月、10月、11月と3回に渡って開催します。今回は特に、芹ヶ谷公園の現状の問題点や課題を見つけることが目的です。

町田の課題と芹ヶ谷公園の可能性



出典：「RESAS（地域経済分析システム）を活用した分析事例 東京都町田市」（2017年11月関東経済産業局）

初めに唐品さんから、町田市の現状について、データを元にお話がありました。

唐品さん「町田市の人口は現在約43万人。20才～24才の人口は多いのですが、25才～29才で一気に減る傾向があります。でも、子育て世代になるとまた増えるんです。

町田の皆さんの休日の過ごし方は、なんと回答者の約8割がグランベリーモールに行っています。続いてリス園。ここに割って入ろうというのが、芹ヶ谷公園ですね！（笑）

歴史としては、絹の道と二・六の市に代表されるように、宿場町や商業の街として栄えてきました。昭和の時代には団地ができて一気に人口が増え、『23万人の個展』という市民発の芸術祭なども開催された活気のある街です」



町田でも駅前周辺の建物の老朽化やシャッター街化、店舗や文化コンテンツの魅力低下による集客・就業減少の懸念がある。出典：「まちだニューパラダイム 2030年に向けた町田の転換」（編集：町田市未来づくり研究所 2015年3月発行）

唐品さん「ところが、今は近隣の駅にも大型のショッピングビルができ、周りの街も魅力的になって行く中で、『町田はどうする？』というのが問われています。町田のこれからの魅力をどのようにつくっていくかが、大きなテーマなんですね。その中で芹ヶ谷公園は、とても重要な場所です。

世界で最も高価なマンションというのがニューヨークにあるんですが、そのいちばんの目玉は部屋からセントラルパークが見渡せること。つまり『公園』には、そのくらいの価値が出せる可能性があるということです」

また、2017年6月に都市公園法が改正され、公園内に、社会福祉施設や、民間事業者による公共還元型の収益施設が設置できるようになりました。具体的には、公園の中で保育所やレストランなどを営業できるようになったのです。

これを機に、豊島区の「南池袋公園」にはカフェが設置され、それまでよりも多様な人々が多様な目的で公園を利用するようになりました。静岡県沼津市では、長年愛されてきた「少年自然の家」の敷地と建物が宿泊施設として再整備され、「泊まれる公園 INN THE PARK」として人気を集めています。

上：東京都豊島区の「南池袋公園」（Photo Via：<https://www.facebook.com/Minamiikebukuropark/>）

下：静岡県沼津市の「泊まれる公園 INN THE PARK」（Photo Via：<https://www.innthepark.jp/>）



このように、公園という公共空間に新しい風が吹き始めているのです。

唐品さん「『芹ヶ谷公園があるから町田に住もう』みたいなことになると良いですね。将来の子ども達へ、どんな公園、どんな街を渡していくのか。ぜひ皆で考えてみましょう」

チームに分かれて公園内へフィールドワークに！



さてここからは、いよいよ課題探しのフィールドワーク。6つのチームに分かれた参加者の皆さんと、市の職員や芹ヶ谷公園の再整備に関わるスタッフも一緒に芹ヶ谷公園の中へ出かけました。

この10年、毎日のように子どもと芹ヶ谷公園へ来ているという町田在住の女性からは、

「やっぱりこの公園のことは他人事ではありません。公園の中に飲食店がほしいとずっと思っていました。アメリカンドッグみたいなものではなくて、健康的で美味しいものをちゃんと食べさせてくれるようなお店です」

芹ヶ谷公園の中央にある虹と水の広場の噴水では、子ども達が水遊びをする姿も日常的に見られます。芹ヶ谷公園によく通っている参加者からの情報によると、

「この水は湧き水だそうなんです。でもお母さん達からは水質について懸念する声も聞きます」



多目的広場では、こんな声も上がりました。

「ここは広すぎて木陰がないから、夏は誰もいないですよ。いろんなことができそうなのに」





お仕事で時々町田に来ているという参加者の方からは、

「町田は、駅前のごちゃごちゃしてるけど、こっちは野っ原があって良いんだよね。ただ、駅からこの公園までの道が分かりにくい」

公園内の落ち葉を集めて捨ててある「落ち葉だまり」に案内してくれた参加者の方が落ち葉を掻き分けると、腐葉土の中にはカブトムシの幼虫がゴロゴロ！

「こんなにカブトムシがいるのを誰も知らないでしょう？活かせていないのがすごくもったいない。どうにかできないかなと思っているんです」



芹ヶ谷公園の課題をチームごとに発表



あっという間に時間いっぱいとなり、参加者の皆さんは講堂に戻って、フィールドワークで発見した課題をチーム内で整理しました。解決アイデアまで生まれたチームもあります。その発表の内容をご紹介します。

【Aチーム】

●芹ヶ谷公園の課題

たくさんの入口があるのは良いけどサイン必要／入口が分かりづらい
／公園のデザインで何を重要視するか、自然を大事にするのか



●良い所・もっと良くするアイデア

水を楽しむ環境が子どもに良い／町田発の、町田のお店だけのフードフェス／癒しをテーマにしたヨガや音楽フェス／高齢者と子どもの接点になるアートの場所やイベントがあると良い／泊まれる場所（ツリーハウス）があると良い、大人と子どもが別々の夜を楽しめるとか／白い壁があると映画を観たり壁打ちができる、落書きもできると良い／段々畑を作り、地産地消／ペットがいるのは良いのでドッグランがあると良い／夏は暑いので公園のベンチに屋根があると良い、ソーラーパネルになっていてベンチで充電したりWiFiも飛んでいる／ゴミ箱を分別を教えながら設置する／バルーンで場所を知らせる／カブトムシを有効活用／建物ではなく公園でイメージを作れると良い

唐品さんコメント「子どもを安心して遊ばせておきながら、大人は大人で楽しめるようになっていると良いですね。大人も子どもも楽しめる公園になると良いですね」

【Bチーム】

●芹ヶ谷公園の課題

冒険遊び場は雨の日に行けない、雨が降っても行きたくなる公園に
／19時以降公園に入れない（カブトムシを採りに行きたいのに）
／大きな広場の真ん中はあまり使われていない、周りには人がいるけど
／トイレが汚い／駐車場・駐輪場が少ない／駅からの道が分かりづらい
／どこが入口？／駅から遠い／奥に進むにつれて面白くなる
／夏は気持ちいいのに冬のコンテンツがない／



●良い所・もっと良くするアイデア

〇〇するな！という禁止はしてほしくない／雨の日や夏の日差しのキツイ日にも行ける屋根があると良い／おにぎりを買いたい（喫茶けやきではテイクアウトOK）／版画美術館は世界でも珍しいので特性を生かした方が良い／カブトムシの聖地、そして保護／雨の日でも座れる水はけの良いベンチがほしい／冒険遊び場はこの公園の魅力！／もっと小さな子どもが遊べる場もあると良い／シャトルバスがほしい（あったのになくなった）／ひだまり荘をもっと活用できると◎（無料休憩所なので、ここを寺子屋にしても良いかも）／湧き水がある／自分が自分らしくいられる美術館がほしい、子育てにも◎／シェアカフェ（お母さん達が日替わりで個性を生かして出店できるようなカフェがあると良い）／変に遊具を作ってほしくない、自然の中で遊んでほしい／鶴見川公園のようなバイオトイレを作ってほしい／寺子屋カフェ（屋根だけでも良い）／野鳥がたくさんいるのが良い／この公園を通して雇用を生めたら良い（町田のお母さんは町田で働きたい）

唐品さんコメント「公園の奥の方が面白くないという課題に対しては、奥の方だけ有料制のクローズドの空間にしても良いんだよね。子どもを安心して遊ばせられる。そういう場所も一部あっても良いかもね」

【Cチーム】

●芹ヶ谷公園の課題

駐車場の整備／サインが見えない／自然が素晴らしいが知られていない／外から公園が見えない／トイレの位置とデザインが悪い／公園のルールが分からない／アートと公園のつながりが分からない／交通が不便、バスがほしい／入口が分かりにくく、迷う／飲食がない／パーキングに来づらい、道が狭い／水質に不安を感じる／広場の先の崖が行き止まりに見える



●良い所・もっと良くするアイデア

生き物がほしい（釣り堀とか）／個人が寄贈できる美術館がほしい／もっとゆっくりアイデアを出したい、四季ごとのアイデアなど／公園内の雑草や草花を採って遊びたい／落ち葉を活用したい

唐品さんコメント「公園内にプロフェッショナルな人がいると良いのかもね。ザリガニ釣りのプロとか、雑草のプロとか。この日はこの人の日、という感じで、いろいろ教えてもらえたり、一緒に遊べたりする。やはりハードだけ作っても意味がないので、公園のソフトをどうするかが重要ですね」

【Dチーム】

●芹ヶ谷公園の課題

噴水が人気すぎてカオス？／怖い噂が多い／版画美術館の年間の入場者数が少ない／周りに良いカフェもあるけど連動していない／坂が多い、急坂問題、辛い公園、過酷な公園／おしゃれなレストランがない、デートに行く気はしない／樹や草が大きくて暗いイメージ／谷地形を生かしてきれていない／水を生かしてきれていない、防災などに使えるのでは？／サインがなくて迷う、回遊性が低い／駅から遠い、交通の弁が悪い、バスもない



●良い所・もっと良くするアイデア

芹ヶ谷公園と教育（町田の土で陶芸、小中学校とのつながり）／ポケモンは町田生まれ（ポケモン GOなどと連動すれば今の分かりづらさが逆に魅力に）／水路をもっと活用すると良い／新しい交通手段（モノレール、ジップライン）／入口が分かりづらいことを価値に変える

唐品さんコメント「道路にある何かの足跡を追ってきたら、いつの間にか芹ヶ谷公園に辿り着いちゃった、みたいな導線のデザインもできるかもしれないですね。自然に人が集まって来ちゃうような仕掛けができると良い」

【E チーム】

●芹ヶ谷公園の課題

来づらい、コミュニティバスなども分かりづらい／自然を残す

●良い所・もっと良くするアイデア

ホタル・カブトムシ・ザリガニなど自然マップがあると良い／写真スポットがあると良い（日の出がきれいに見える）／秘密基地（大人版）を作れる環境、童心に帰れる町田／カブトムシやザリガニが採れる／朝、暑い日も、公園の中は涼しい／分かりづらいところが冒険感があって良い、下町間、穴場感／四季が感じられる（街なかでは感じられない）／自然がいっぱい、遊び場がいっぱい／かわいいザリガニがいっぱい／冒険遊び場を大きく／人を呼ぶ魅力を作る／企画展・個展をやること／文学館、博物館を持つてくる

唐品さんコメント「自然が良いと言っても、野放しでは自然は維持できないんだよね。そういうことまで子どもも学べるように、活動を交えながら森を守るようにしていくと良いかもしれない」



【F チーム】

●芹ヶ谷公園の課題

飲食店少ない（しゃれた店を）／遊歩道が狭い（走っている人と歩いている人、ベビーカー、自転車の動線の交錯）／暗い、うっそうとしている、怖い、暗くなったら近づいてはいけない、急坂を下るしかない／樹木整備、でも切りすぎないで／「町田は子どもが育てやすい」と言われるけど本当は？期待値高い

●良い所・もっと良くするアイデア

もっとこまめに清掃してほしい→誰かにやってもらうのではなく、きれいにする代わりにポイントが貯まる→ヨガの会場費にしたり、虫採りに使えるサポーターポイント／版画美術館もっとながら（個人所蔵品も寄贈するなど）／ポケモンの原点としての虫採り公園に（2020年、外国の子どもや地方の虫採り少年と交流）／里山の豊かさ、自然の豊かさ、虫が採れる都市公園に（自分達で育てれば採ってOK）／子どもが自由に遊べる、それを大人が見守る懐かしい未来がある公園

唐品さんコメント「美術館といっても、誰もが構えずに来られるような場所にしていくと良いかもしれないですね。何気なくフラッと入って行けるような。怖いイメージがあるのなら、それ以上に良いイメー



ジをこれから作って行って、この公園を市民が自慢できるような場所にしていけるといいよね」

全チームが発表を終えたところで、町田市政策経営部企画政策課の戸田 勝さんがコメントを述べました。

「今日はいろんな方に参加していただき、たくさんの意見が出たことが非常にうれしいです。これからも皆さんに、芹ヶ谷公園を『自分の公園』だと思って力を貸していただきたいですし、一緒に作っていきたいと思っています」



参加者の声

最後に参加者に今日の感想を伺いました。



もうすぐ町田に住むことになるという、造園業をしている男性は、お子さんと一緒に参加しました。

「職業柄、この公園がどうなるのか気になって参加しました。これからこの町に住む身として、同世代や若い世代の人とも、街に関わるこういう話ができることが良かったです。」

町田に住む主婦の方も、お子さんと一緒に参加してくださいました。

「大人から環境保護の意見が出る中で、子ども達からも、自然を壊さないでほしいという声が出たのが印象的でした。世代は違って、自然を大事に思う気持ちは同じなんだなぁと。保護と言っても禁止事項ばかりではなく、楽しさも必要ですね」



長年、町田のまちづくりに携わって来た 70 代の男性は、

「今日は楽しかったですね！ 高校生からプロのランドスケープデザイナーまで、同じテーブルで話せたのが良かった。若い人がこれからの地元のことを考えてくれるのはうれしいです。町田は昔から行政と市民の距離感が近い街なんです。やはり自分は、若い人の応援ができる年寄りでいたいと思います」





俳優やリポーターとして活躍している、町田在住のタレントカイル・カードさんも参加されていました。

「町田市にはいろんな人がいて、いろんな悩み事があって、いろんな考えがあるんだと感じました。皆がフラットに、自由に話せる今日のような場はとても良いことだと思います。公園のあり方のアイデアも面白かった。一つでは難しくても、アイデアをいくつか足すと良いものになる気がしました」

今日の「町田を面白がる会 -芹ヶ谷公園の未来を考える編-」では、参加者が子どもから年配の方まで多世代に渡っていたのが大きな特徴でした。そして世代は違えど、芹ヶ谷公園を想う気持ちや、自然を大切にしたい気持ちは同じです。

町田の中心市街地からすぐの場所に、自然あふれる公園と美術館があることは、都会のみならず全国的に見ても大きなチャームポイント。街なかの賑わいとうまく連動を図りながら、次世代の若者や子ども達にとっても町田の自慢になるような公園に磨いていけたら良いですね。



【レポート】「公園の未来」を面白がる会（CASE：町田市・芹ヶ谷公園）

2019年10月10日（木）19:30~22:00 @CAFE SALVADOR BUSINESS SALON（茅場町）

10月は、番外編として町田市を飛び出し、東京駅・丸の内エリア、日本橋エリア、銀座・京橋エリアのちょうど真ん中に位置し日本を代表する企業集積地のひとつである日本橋・茅場町で開催しました。

町田駅から歩いて15分ほどの所にある、総面積約15万㎡の広大な「芹ヶ谷公園」。1982年の開園から、町田市民には3世代に渡って愛されてきた公園です。日本全体で人口減少が進む中、転換期を迎える郊外都市 町田のこれからの魅力化のためにも、市はこの芹ヶ谷公園を再整備していこうとしています。

「多くの人に愛されている公園だからこそ、皆に自分の公園だと思って力を貸してほしい」。そんな思いから、町田市は、この公園に関心を寄せる人々と一緒に再整備計画を考えるイベント「面白がる会」を開催することにしました。



9月の第1回は、芹ヶ谷公園にある町田市立国際版画美術館の講堂を会場に、公園内のフィールドワークも交えながら課題を見つけるという内容で実施。子どもからご年配の方まで大勢の町田っ子が参加し、活発に意見を出し合いました。ここで出た課題に対して、11月には同会場で第2回を開き、その解決アイデアを皆で考える予定です。

さて、10月は番外編。今回は、町田市民ではない人々にも知恵を借りようと、場所を変えて東京の茅場町にて開催しました。イベントが告知されるや否やあっという間に満席になったことから、公園再整備への注目度の高さが伺えます。建築関係者、公園の管理事業者、有識者、大手ディベロッパー、面白がる会ファンなど、都心ならではの顔ぶれが集まったこの日の様子をレポートします！

芹ヶ谷公園をなぜ再整備するの？

芹ヶ谷公園は、昔から商業の街として栄えてきた町田の中心市街地（駅前のショッピングビルや商店街が集まった一帯）の近くにあり、「谷」と名の付く通り、元々の谷戸地形と雑木の森を生かした自然豊かな公園です。

その中に、多目的広場や大噴水、アスレチックができる冒険遊び場、遊歩道などが配置され、園内でホテルやカブトムシなども見ることができます。南側には、日本では珍しい版画専門の「町田市立国際版画美術館」があり、2019年10月には北側に新たに「芹ヶ谷公園グラウンド」もオープンしました。



この公園を、なぜ今、もう一度整備する必要があるのでしょうか？

会の初めに、ファシリテーターである唐品知浩さんから、今回の再整備計画の背景についてお話がありました。

公園を取り巻く環境が変化している

唐品さん：「昔と今とでは、公園の事情が変わってきているんですよ。最近の子ども達の遊びと言えばゲームやスマホ、出かけるのはショッピングセンター。近所の空き地で遊んでいた僕ら親の世代とは遊び方が違います。公園で遊ぶ子どもが減っている一方で、今ある公園のほとんどは大人のニーズに合っているわけでもありません。

また、公園での禁止事項が増え、ボール遊びをしちゃいけないとか、大きな声を出しちゃいけないとか、行動を制限する看板が設置されていることが多くなりました。少子高齢化で税収も減少する中、公園を維持・管理するための財源確保も課題になっています」



こうした社会の変化に合わせ、2017年6月には都市公園法が改正されて、公園内に、社会福祉施設や民間事業者による公共還元型の収益施設（保育園やカフェなど）を設置できるようになりました。つまり、公園内の施設で収益を上げ、そのお金を公園の維持・管理に回していこうという考え方です。

本当に望まれている公園とは？を問い直す

そんな中、町田市は2013年に、未来のまちづくり構想の中で、誰もがもっと文化・芸術を楽しめる環境をつくろうという政策を打ち出しました。その一環として、2015年に公園内に新たに国際工芸美術館（仮称）を建設する（2019年6月に閉館した市立博物館の貴重なコレクションの展示場所も兼ね）ことを決定しましたが、この計画は、2016年に財政上の理由で延期となりました。

芹ヶ谷公園内にある町田市立国際版画美術館（1987年開館）



こうした出来事を経て、建物をつくるというだけでなく、街なかとの関わりまでも含めた芹ヶ谷公園全体のより良い姿を考えていこうという動きが始まったのです。

公園の新しい使い方のヒント

伊藤雅人さん（株式会社日建設計）は、日建設計の新規事業部であるパブリックアセットラボにて、都市公園や街路をはじめとするさまざまなパブリックスペースの計画から運営までを



トータルプロデュースする事業に取り組んでいます。

今日の「面白がる会」では、芹ヶ谷公園の新しい使い方アイデアを皆で考えるにあたって、ハード（建物）の開発ではなく人を中心にしたソフトウェアの力でのまちづくりを提案している「ULTRA PUBLIC PROJECT」（ユニットメンバー：Rhizomatiks Architecture、ティー・ワイ・オー、電通ライブ、日建設計、プロペラ・アンド・カンパニー）の1人である伊藤雅人さんに、事例となる取り組みについてお話ししていただきました。

ひらけばそこが、未来の公園。「PARK PACK」



写真提供：ULTRA PUBLIC PROJECT



2018年10月にTokyo Midtown DESIGN TOUCHで実施され話題を呼んだ“動く公園”「PARK PACK」をご存知でしょうか？ コンテナの中にいろいろなツールを詰め込んで公園に置き、利用者がそれを使って、思い思いに遊びやアクティビティをつくり出すことができるという、公園の新たな可能性を広げる試みです。伊藤さんはこのプロジェクトに、企画段階から参加していました。

伊藤さん「PARK PACK は、従来の公園に設置されている、すべり台・ブランコ・砂場などの固定的な遊具とは全く違う発想です。東京ミッドタウンの芝生広場にもいくつか禁止事項が掲示されていますが、PARK PACK の期間だけは行動やアクティビティを推奨するようなサインを工夫して設置し、アクティビティの材料となるような最小限のツールをコンテナに用意しました」

PARK PACK は東京ミッドタウンでの実験期間終了後、現在は渋谷川のほとりで企業のプロモーション用施設として使用されている。Via：<https://ultrapublic.jp/parkpack/>



コンテナの中に入っているのは、組み合わせていろいろな形をつくることのできる薄い板。それを置いてみたところ、公園の利用者が、自分でその板を組み立てて椅子やテーブルをつくったり、テントみたいなものをつくったり、洋服みたいなものをつくって着てみたりと、いろんなことをし始めたそうです。



伊藤さん「そのうち、ピアノを演奏する人が出てきたり、夜に弾き語りライブを始める人が現れたり、ワークショップをしたいという人が現れたり、皆が自発的に自分の持っているコンテンツを持ち寄って楽しみ始める、ということが起こりました」

自発的なクリエイティビティを引き出す仕掛けが、公園を面白い場所へと変えたポイントだったようです。

企業も個人も、できることや楽しみを持ち寄って

資料提供：伊藤雅人さん（日建設計）



唐品さん「公園を持続させるために、公園でどう稼ぐかがすごく難しい。結局はカフェとか、人を呼ぶ建物をつくることになりがちですね」

伊藤さん「『PARK PACK』では、東京ミッドタウンでやった時は使用料は取っていないんです。企業協賛もお金じゃなくて、人員や物の提供という形で、各社が出せるものを持ち寄ってやりました。収益を増やすより、まず支出を減らすのが日本の公園の課題じゃないかと思います」

唐品さん「企業も個人も自分が持っているスキルやリソースを公園に提供して、皆で支出を減らしていくという取り組みですね。例えば企業なら、公園内に WiFi を提供して、代わりにその画面に控えめに広告を出す、ということもできます。

一方で公園の個性も大事ですよ。子どもはすぐ名前を付けるでしょう、鎖があったら『鎖公園』、壁があったら『壁公園』とか。今の風潮でいくと集客できる公園が良しとされがちだけど、『〇〇なら、あの公園』みたいな個性も必要だと思う」



伊藤さん「そうですね、集客があってカフェが成り立つ公園じゃないと救えない、という話ではない未来が望ましい。八王子の長池公園にとっても素敵な絵があるんです。いろんなことを禁止する看板の代わりに、そこには老若男女、大人も子どももお年寄りも、好きなように思い思いに公園で過ごしている様子が描かれていて、これが理想的な姿だなあと感動したんです。いろんなプレイヤーが活躍できる公園になると良いですね」

こうした背景や活用事例を聞いた後、いよいよチームごとに芹ヶ谷公園の新しい使い方を考えるアイデア出しが始まりました。記録する画用紙が足りなくなるほど白熱した会議の成果をご紹介します！



【A チーム】



●使い方アイデア

企業の展示室／たき火／焼き芋など皆で何かを持ち寄って焼パーティー／虫めがねで餅を焼く、マシュマロも／学校をしたい／サーカス、パフォーマンス／とにかくデカイものをつくる！（皆で協力して）／公園で働きたい（コバカバパーク）皆会社に行かなくて OK／WiFi（超強力なの）／皆で協力して WiFi の塔をつくる／泊まる、公園を庭にする／キャンプのテントを並べる／テ

イピ／食べられる公園／農家の畑か直売所、生産→食べる所まで全部できる／作物の取引（社会の縮図が学べる）／子どもの面倒を見てくれる人がいると良い／住む（管理人）＝公園コーディネーター、日替りでも◎／動物を飼う（雑草を食べる）／ラフティングや SUP の水遊び／お酒をつくる（芹ヶ谷ビール）／子どもだけで遊べるエリアをつくる／泥んこになって遊びたい（大人も！）ユニクロ＋洗剤メーカー スポンサー／泥んこスポーツ・鬼ごっこ／池は主がいる感じがして怖い（ゆるキャラをつくる？）／公園お化け屋敷、肝だめし presents by 子ども達、シニア／ホームレスや認知症の人がこれるような、面白がれるような仕組みを考えたい／雑草おじさん（食べられるものを見極めてくれる）／車椅子レース／大将棋大会（自分がコマになる）／炊き出し選手権、ワールドカップ、インターナショナル炊き出し／シニアの社交場（管理人が集める）

唐品さんコメント「公園内がコワーキングスペースになっているというのは良いですね。仕事の日には電車に乗って都心に行くのではなく、公園に行く。リンゴの木とミカンの木のオーナー同士が収穫した実を取り引きするというのも面白い」

【B チーム】

●使い方アイデア

ライトアップ（夜の公園活用）／グランピング（夜のお楽しみ）／サバイバル公園（陣取り合戦、サバゲー）／でっかい穴を掘る（井戸もあり！土器を見つけるもあり！）／家をつくる（災害時に備えてサバイバル技術を身に付けよう）／キャンプファイヤー（とにかく物を燃やす、お焚き上げ、すべてを無にする）／虫を食べる（食糧危機を救おう、雑草もあり）／サウナと水（サウナで温まったら噴水へ直行）／公演の好きな所で皆で静かに本を読む／木のオーナーになる



唐品さんコメント「木のオーナー制度は面白いですね。桜の季節は自分の木下でお花見ができるなんて最高ですよ。このチームは公園に住み始めてますね。サバイバル公園で虫を食べる子どもが増えそうで、親としては心配です（笑）」

【C チーム】



●使い方アイデア

もぐら生活（どんどん穴を掘る、どんどん広がる。会員制で特別感）／太陽光キッチン（ぐりとぐらのホットケーキを作って食べる）／公園学校（壁は要らない、ぶっ飛んだ建物、囲まれていない開放感）／いたずら企業の落とし穴／食べれる公園／ツリーハウス団地／勝手に登らせてくれる超ハイテクな木／木登りの森（ハイテク登り・アナログ登り）／公園全体に柔らかくふかふかしたものを敷く／火が使える／秘密基地をつくり続

ける／公園でお葬式、皆で参加！明るい、安心、前向き！／おじいさん・おばあさん（60才以上が主役）のムーディーな社交場／皆でつくるコミュニティカフェ／誰でも使えるよりどころをつくる／自由に絵を描ける／パフォーマンスができる場がほしい／エレベーター付き VIP なツリーハウスホテル／カブトムシのキャッチ＆リリース／建築的な落ち葉ため場（皆が落ち葉を集めたくなる。カブトムシおじさんも関わりたい）

唐品さんコメント「これからは町田でカブトムシを育てて売る、という時代が来そうですね。公園が学校というのは良い。いつも同じ室内で同じおもちゃで遊ぶのはつまらない。公園でいろんな遊びや学びができると、教育的にも良いですね」

【D チーム】

●使い方アイデア

子どもは日常、大人は非日常／開放区／今月の○○放題／子どもらしさを取り戻すしつけ／子どもを安心して放牧／農園／キッチン（BBQ 以外）／子どもビアガーデン／羊・ニワトリ VR でハンティング、動物を捕まえる／穴を掘りたい！人が埋まるくらい／アリの巣公園／モグラ探し・育て／土・



草とたわむれる with シャワーとビール／泥にまみれたい！／泥汚れ対応コインランドリー／絵の具使い放題（自由に落書きエリア・通路）／チョーク使い放題（いろんな色で）／画材使い放題（メーカー提供・月替り）／落書き洗浄イベント（メーカー提供）／公園で生まれたアートを展示する美術館／人間版画&シャワー・ビール／アートの転移事情・展示会／屋外トレーニングジム（シャワー・ビール・プロテインは有料）／聴きたい時に聴ける FM ラジオ局（公園専用）／ピアノ／歌える・踊れるステージ／しつけ教室（犬・人間）／ドッグラン／土間・和（半分外、半分中）／いろり（皆でごはんを）／エリア分けテーマ別／フリーレンタルスペース／有料ゾーンと無料ゾーン／中央にシャワー・ビール

唐品さんコメント「今日は空前の穴掘りブームが来てますね！ 5 チーム中 4 チームが掘ってます。泥んこになっても公園にお風呂やコインランドリーがあるというのは良い。うちも子どもと出かけると銭湯を探して、子どもをきれいにしてそのまま寝かせるということをよくやります。コインランドリーは洗剤メーカーがスポンサーになってくれると良いですね」

【E チーム】



●使い方アイデア

雨の日限定でウォータースライダー／雪を集める公園／お寺みたいな公園（気軽さ、お師匠さんがいる）／巨大ソファでリラックス公園／カラフル砂場／ワクワクさんがいる公園／ボール遊びだけ OK 公園／青空ゲーム大会（巨大スクリーンでスーパーマリオ）／皆の菜園公園／穴掘り OK 公園（穴掘りグッズがある）／メトロ公園／屋上公園

／ビルの10階だけをつなげた10フロアパーク／相撲パーク／毎日運動会／コココーラパーク（大競技実験）／ヌーディスト公園（日焼け、一面芝生）

唐品さんコメント『『ワクワクさん』ほしいですね！雨の日や雪の日というマイナスをプラスに転化するアイデアもとても良いと思います。公園が菜園になっているというのも良いですね。非常時に何日かしのげる食糧を育てているとなれば、皆で大事にするんじゃないでしょうか』

参加者の声

最後に、参加者に今日の感想を伺いました。

岐阜からわざわざ来て下さった、公園の管理をしている業者の方は、

「いろんな人が参加されていて、同業者の方に会えたのも良かった。公園をただ単に管理していくというだけでなく、もっと皆に楽しんでもらえるような場所にしていきたいと考えていたので、今日はとても参考になりました」



都内の大手マンションディベロッパーにお勤めの女性は、

「今日は自分自身が存分に面白がれました。公園でお葬式とか、公園をおじいさんやおばあさん達の出会いの場に、というアイデアは常識的な仕事の範囲ではタブーかもしれませんが、今日の場合だからこそ出てきたアイデアだと思います」

都内で建築関係のお仕事をされている男性は、

「公園の話をする中で、やはり皆、童心に帰りたいんだなあと感じました。子どもにもそうさせてやりたいですね。公園の中で、そういう世代の循環みたいなものが生まれるといいなと思いました」





「面白がる会」に出てみたかった、というこちらの男性は、

「日頃は建築関係の会社で商品開発をしているんですが、なかなかここまでぶっ飛んだアイデアは出せないですね。今日は我慢していたのを思いっきり出せて楽しかったです」

千葉で、空き地を利用してイベントを運営している女性は、

「お金を取らずに皆が楽しめる方法も必要だけど、これからの公園には収益も必要なんだと思いました。持続可能で、使う人が増える仕組みを考えていかないといけないですね。」

今ある公園の多くは街の人が欲しているものからはかけ離れていて、誰の意見も聞かずにつくった結果なんだと思います。これからの公園を、誰かがやってくれる、じゃなくて、自分達、皆でつくっていったら良いなと思いました」



今日の「町田を面白がる会 -芹ヶ谷公園の新しい使い方を考える編-」には、建築業界や不動産業界、公園管理のプロも多く参加していましたが、皆さん現実的な課題をしっかりと認識している立場でありながら、日頃の業界の常識を外して思い切りアイデア出しを楽しんでくださいました。

そして、改めて公園の未来を自由に考えようとした時、こうしたプロの方々もいつの間にか童心に帰っていく様子が印象的でした。「べき」や「ねばならない」ではない、私達が本当に楽しむための芹ヶ谷公園のあり方を、子どものような気持ちを忘れずに考えていきたいですね。





【レポート】町田を面白がる会「芹ヶ谷公園の新たな使い方を考える編」

2019年11月4日（月・祝）14:00~16:30 @町田市立国際版画美術館

晴れわたる絶好の公園日和となった11月4日、「町田を面白がる会 -芹ヶ谷公園の新たな使い方を考える編-」が町田市立国際版画美術館 講堂にて開催されました。

町田市は、芹ヶ谷公園をこれからも長く愛される場所にしていくために再整備する計画です。中心市街地との連動を図り、誰もが芸術・文化を楽しめる拠点として、この公園を「町田市の1つの魅力・顔」にしていきたいとの思いがあります。

市は、この再整備を従来のように行政や業者だけで行ってしまうのではなく、公園を利用している市民のみなさんと一緒に進めていきたいと考えています。その一環として、この公園の課題をみんなで発見し、それを解決する新しい使い方アイデアを考えようという場が、9月と11月（今回）の全2回にわたり開催している「町田を面白がる会」です。

さらに10月には番外編として、芹ヶ谷公園を含む未来の公園の在り方・使い方を考える会を、茅場町でも開催しました。

今回は、9月に抽出した課題を踏まえ、10月の茅場町で出たアイデアもヒントにしながら、芹ヶ谷公園の新たな使い方をみんなで考えました。その様子をレポートします！

連休の最終日となったこの日の芹ヶ谷公園内には、散歩する人、敷物に寝そべて読書する人、ヨガをする人、広場でピクニックやボール遊びをする親子連れなど大勢の老若男女が見られ、改めてこの公園が世代を超えて町田市民に親しまれているのが感じられた。



芹ヶ谷公園の未来をつくる4つのキーワード

町田駅から750mほどの距離にある、総面積約15万㎡、東京ドーム約3個分の規模の芹ヶ谷公園。少子高齢化に伴う収収減・人手不足が予測される中で、今後もこの公園を維持して行くためには、今までのような行政に任せきりの管理では限界があります。利用者や民間業者と一緒に、「自分達の公園」として積極的に関わっていく必要があります。



これまでのイベントで交わされてきたディスカッションを踏まえ、ファシリテーターの唐品知浩さんから、芹ヶ谷公園の未来にとって重要だと思われる4つのキーワードが示されました。

4つのキーワード

- ①自然
- ②市民コミュニティ
- ③アート
- ④収益

①「自然」

芹ヶ谷公園は、もともとあった谷戸や森、湧き水などを生かしてつくられた自然あふれる環境であり、それを守ってほしいという声が子どもからも大人からも多く聞かれました。どう守るか、というやり方の新しい発想が必要になりそうです。

②「市民コミュニティ」

市民がこの公園にどう関わっていくのか、また、街なかとどのように連動していくのが、いっそう大事になりそうです。市民のさまざまな活動・交流の場として活用されることで、公園の維持・



管理にも良い影響が期待できるかもしれません。

③「アート」

現在の国際版画美術館や、2013年に町田市が描いた「芸術の杜」構想にある国際工芸美術館（仮称）はもちろん、芸術活動をみんなが日常的に楽しめる拠点になるように、公園にアートの要素を取り入れていくことも新たな未来につながりそうです。

④「収益」

広大な芹ヶ谷公園を維持していくためには、やはりお金がかかります。2017年6月に都市公園法が改正され、公園内で公共還元型の収益施設を営業できるようになりました。すでに全国ではいろいろな公園が、カフェや宿泊施設などの新たなチャレンジを始めています。芹ヶ谷公園でも何か収益を産む工夫をし、それを管理費に充てていくことが必要かもしれません。

芹ヶ谷公園の魅力と課題



さてここで、9月の「[町田を面白がる会 -芹ヶ谷公園の未来を考える編-](#)」において、参加者のみなさんが実際に公園内を歩き回って感じた魅力・課題を振り返っておきましょう。

【芹ヶ谷公園の魅力・資源】

- ◎癒される水資源（水路、湧き水、水を楽しめる環境）
- ◎四季を感じる豊かな自然（里山の豊かさ、季節が感じられる）

- ◎生き物がいっぱい（野鳥、カブトムシ、ザリガニ、ホタルなど）
- ◎その他（町田生まれのポケモンGOと連動させると分かりづらさがプラスになる、冒険遊び場、珍しい版画美術館）

【芹ヶ谷公園の課題】

- 入り口が分かりづらい（入り口複数、サインがない、木で公園が見えない）
- 町田駅から行きづらい（道が分かりづらく狭い、交通不便、坂多い、駐輪場・駐車場少ない）
- 雨の時に利用しづらい（雨宿りできない、冒険遊び場に行けない、道がドロドロ）
- 印象が悪い／安全性がない（木が多く暗い、怖いイメージ）
- 自然を楽しみきれない（谷の地形を生かしきれていない、奥がつまらない、19時以降入れない、雑草を採れない、水質懸念、夏暑い）
- アメニティが足りていない（売店がない、トイレの位置・デザイン良くない、小さい子どもの遊び場がない）
- ファニチャーが少ない（座れる所、ゆっくりできる所少ない）
- その他（冬の遊びがない、デートに行く気がしない、公園のルール不明、版画美術館を生かしきれてい

ない)

芹ヶ谷公園の新たな使い方アイデアを発表！

これらの魅力や課題を踏まえ、今回は 6 つのチームで芹ヶ谷公園の新たな活用アイデアを考えました。その成果をご紹介します！

【A チーム】

●使い方アイデア

1) 自然の管理と整備

- ・湧き水と緑の整備≒資源として活用（例）防災用
- ・「水」の魅力を生かす（美しい水へ、非常用、子どもへの自然教育、ホテルとメダカ→キャンプなど）

2) 「芸術の杜」としてのコンセプトを明確に

- ・エリア分けなど
- ・文学館を移転、跡地を売却→集中させてより盛り上げる

3) 交通の便

- ・ミニバス
- ・周辺住民、大学等を視野に入れる

4) 明るいイメージ作り

- ・看板など
- ・敷地内巡回するバス
- ・行き止まり、暗いイメージを解消する工夫
- ・オープンカフェ、フェスタ
- ・「暗い」を解消。照明≒都市公園として整備

5) 芸術だけでない人を集める工夫（特に若い人）

- ・明るいイメージ
- ・オープンカフェ+本
- ・フェスタ、ギャラリーなど楽しいイベント

6) 「木」を使った体験講座

- ・木の枝、おもちゃ
- ・炭づくり
- ・木工



7) 完成させる中で市民が参加できる「ゆとり」「間（ま）」を

- ・行政は舞台のみを提供
- ・安価で市民が活動工夫できる「場」を用意
- ・週末には（プロでなくても）講師の講習会
- ・制限をしない場の提供（レンタルスペース→駅からの距離が気にならなくなるかも、シェアキッチン・シェアカフェ）

唐品さんコメント「木の伐採一つとっても、プロじゃないと分からないよね。自然を守りたい気持ちはあっても、どう守っていくかという方法を僕らは知らない。その守り方も子ども達と一緒に学べるような講座だと良いですね。間伐材で椅子を作ったり、ペレットにしたり、そういうふうにご利用しながら木を切ると、ただ剪定するのでは違うよね。作ったものをカフェの一画で販売したりするのも良いかも」

【Bチーム】

●使い方アイデア

- ・子ども達にやってはいけないことを教えられる、そして”できる”公園に
- ・自分達でルールを決めてできる公園
- ・やんちゃ大人基地
- ・泊まれる所（キャンプができると最高）
- ・バーベキューができれば…（花火も）
- ・焼芋したい、炭火コーナー（持ち物持参）
- ・何も持ってなくてもスポーツができる
- ・全天候対応の広場（雨だからこそ行ける場所）
- ・雨をむしろ楽しむイベント、長ぐつ美人コンテスト
- ・乾きやすいベンチ（お年寄りも）
- ・居心地のいいベンチ、ハンモック貸してほしい
- ・パウダールームとして使えるトイレ
- ・本を持ちよって青空図書館（利用者が管理）
- ・鬼太郎ストリートみたいな
- ・公園全体を版画美術館に
- ・マイラベルビールを作りたい
- ・大型スクリーンでゼルビアのPV
- ・仲見世のお店が芹ヶ谷に集合
- ・公園発→駅へ気球を作って飛ばしたい



唐品さんコメント「バーベキューやキャンプは要望がありますよね。貸し出しがあると良い。レンタルの椅子やテント、ハンモックなど、メーカーなどの協賛で揃えられると良いですね。町田の街の中にも、芹

ヶ谷公園の森の中にも、美術館がいろいろと点在しているような感じも良いですね」

【C チーム】

●使い方アイデア

- ・せっかくの森は森として残す。カフェは美術館エリアとか（エリアごとに考える）、森の中には森に同化したようなものだけにする（カメラ、ライティング）
- ・新しい大きな階段は、子ども・お年寄に危ないのでは？
→自然とゆっくり昇り降りするような“インスタ映え”する何かを階段に描くなどの仕掛け
- ・犬を飼っている人も周辺に多いので、場所を限定させて犬のエリアをつくって犬と一緒に遊べる。自主管理、お互いの配慮で気持ちよく！
- ・迷路的魅力（入り口の分かりづらさ）を逆手に取る。町から公園までも楽しむ。いろいろな所からアプローチする。登山の〇〇ルートみたいに。
- ・森と水があるので農家と連携して「菜園」があると良い（ワサビとか）。その野菜を月に1回、子どもと一緒に売り出したり、食べたり。
- ・大噴水の大きなオブジェ（シーソー）は子どもがはしゃいでいる雰囲気が良いので、座れたり、たまれる場になると良い（移動できるイスとか）。水を使って流しソーメンをやってそこで採れたワサビをつけて食べる
- ・災害時のテント生活を想定し、公園でキャンプや炊き出し体験を定期的に（テントも貸してくれると良い）
- ・駅から近い所でサバイバル体験。火をおこす、食料を採る、テントをはる、星を見る体験など（至れり尽くせりはNG!）
- ・お泊まり美術館（夜、浮き世絵の中を懐中電灯を頼りに歩く）
- ・星、月、自然を夜楽しむ公園体験。大人が本気で遊ぶ。仮面をかぶってお泊り会



唐品さんコメント「このチームは真面目に議論しているのかと思ったら、結構ぶっ飛んだアイデアが出ましたね（笑）。サバイバル体験ができる公園は良いですね。先日の台風 19 号で我が家も近所の体育館に避難し、3人の子どもの一夜を過ごしたのですが、体験することで非常時の動き方が分かるようになる。町内持ち回りでそういう体験をさせるのも大事かもしれないですね」

【D チーム】

●使い方アイデア

- ・アートをきっかけに人を呼び込む（インスタやYouTube で発信）
- ・レンタサイクルやバスでアクセスできるように（企業間コラボ）

- ・この公園の“売り”は、緑（財産）、レストランや美術館にプラスで人を呼ぶ1日イベント
- ・自然+アート（メヒシバという雑草でみんなアート作品を作る）
- ・災害に強い美術館（未来へ残す芸術財産）。既存の施設も新しくできる施設も
- ・カフェの横に東屋←野外アートイベントに良い！
- ・野外ステージ
- ・美しい、癒しのカフェ文化を。オープンテラスのカフェ設置、のぼり旗や看板は禁止
- ・美術館を長く愛してもらえる一般の人の集いの場
- ・哲学カフェ（老若男女のコミュニティ、特に高校生・女性は面白い！）
- ・カフェに伝言ノート設置
- ・自由に使えるピアノ（500円で誰でも弾ける、投げ銭 Welcome!）、美術館ホールで踊ったり
- ・財源確保のために市民や民間企業からクラウドファンディング、タル募金
- ・SERIGAYA PARK ART & Café。ロゴ入りのおしゃれシンプル案内板（オシャレだと行きたくなる）
- ・キッズジム、ピクニック

唐品さんコメント「きっとここは、森の中に美術館があるから良いんでしょうね。雑草のアートなども似合う。何でも『森の〜』を付けると素敵に聴こえて、森を守りながら人が集まってくる気がしますね」



【Eチーム】

●使い方アイデア

- ・とりあえず芹ヶ谷へ行きたくなるような、いつ行っても“楽しい”場所へ。毎日何かやっている。ワークショップ、イベント、アート
- ・学校連携による「芹ヶ谷教室」。芹ヶ谷のエトセトラを教材に！指導者を育てる、芹ヶ谷の自然観察、ゆるやかなつながり大事
- ・芹ヶ谷版「少年少女発明クラブ」ものづくりの基本を学ぶ
- ・芹ヶ谷でコーヒーを飲みたい。やっぱりカフェが欲しい
- ・芹ヶ谷でお茶を飲みたい。お茶を育てて、摘んで、煎って、飲む。芹ヶ谷公園オリジナル茶とお茶文化



- ・さまざまなスポーツ体験
- ・芹ヶ谷ソラ公園。ドローン、凧揚げ、ブーメラン、花火
- ・芹ヶ谷公園を版画と工芸の聖地に！町田ならではの「分かりやすいディープな版画・工芸」
- ・芹ヶ谷公園お母さん Day（お母さんという強力な資源を芹ヶ谷公園で活用！趣味や得意ごとを生かして芹ヶ谷公園を盛り上げる）

- ・見守りシェア（みんなで子どもを見守る。街のおじいちゃんおばあさんがいっぱい！）
- ・“面白い”大人公園。紙飛行機など大人が子どもに教えられる場所に
- ・お昼寝ハンモック。お一人様で過ごせる場所
- ・芹ヶ谷コワーキング。「仕事ができる公園」公園で働ける、公園で働くと出会える、都心に出なくても働ける
- ・町田にある中小企業が集まって活動できる公園
- ・規制をやめてみる
- ・昆虫育てて売る
- ・焚き火

唐品さんコメント「大人が介在、活躍することで盛り上がる公園になるアイデアは良いですね。子ども達は、日頃は親や学校で接する以外の大人になかなか出会えないので、公園でいろんな大人から何かを学んだりできると世界が広がりそうですね」

【Fチーム】

●使い方アイデア

- ・屋外ステージをつくり、軽音部やダンス部、路上ライブをしている方を集めてフェス！出店も集めてお祭り！→将来性もあり利益も出る
- ・若者を集めたら友だちが来る→若者が来る！市民間にちょっとしたコミュニティが生まれる！町田らしさ◎
- ・公園に行くまでの空いている施設を使って通りを活性化！→公園に行く道を楽しく！
- ・使ってない施設で多目的美術館をつくる
- ・公園の中に色んな色彩を（歩きたくなるようなカラフルな場をつくる）
- ・彼女と座れるベンチをつくる（原っぱでオシャレに。デートに最適！）



- ・彼女と、ママ友と、オシャレなテラス付レストラン&カフェ（安くてオシャレ！）
- ・四季毎にマルシェなど（町田の野菜）公園と町田の魅力を売り出す
- ・子どものオシャレな遊具を集めたゾーンをつくる
- ・町田市の学校を集めてスクールフェス、ダンスもロックも。投げ銭で半分運営費半分出演料に充てる

唐品さんコメント「若い人が『デートができない』公園だと言っているのは、大人として何とかしないとイケない問題ですね、少子化につながっちゃう。スクールフェスは町田らしいアイデア。そこで若い人達が部活動のようにいろいろやっているのは活気も出るし、面白いと思います」

全チームの発表の後で、市民のみなさんやオンデザインパートナーズさんと一緒にテーブルに入って、ご自分もアイデアや意見を出した、町田市政策経営部企画政策課の戸田 勝さんが、コメントを述べました。

「前回に引き続いて参加して下さった方も多く、ありがとうございました。アイデアが今日もたくさん出ましたので、少しずつ実証実験も交えながら進めていきたいと思っています。イベントとしては今日でいったん終わりますが、これからもみなさんに芹ヶ谷公園に関わり続けていただきたいなと思っています」



ファシリテーターの唐品さんから「スペインのサグラダファミリアみたいに、みんなで少しずつ芹ヶ谷公園をつくり続けていく気持ちでやっていくと良いかもしれない」とメッセージがありました。確かに、正解やゴールは、もしかしたらないのかもしれませんがね。この公園をみんなで良い場所にし続けていこうと心を配ることが、より素敵な未来を更新していくような気がします。

参加者の声

最後に参加者に今日の感想を伺いました。



町田在住で自らも子育て中であり、町田のお母さん達の「働く」を応援しているキャリアコンサルタントの女性は、

「身近なお母さん達の声や要望を、私をもっと吸い上げたいなと思いました。今日いらしているのは、やはりとても関心が高く積極的な方々だと思います。この会場には来ていないけれど、普段、お母さん達のコミュニティで言われていることを吸い上げ、世代を超えて訪れたい公園にしていけたら良いなと思います」

町田の団地で生まれ育った高校3年生の男子は、

「今日は楽しかった～！いつもは大人の人とこれだけ関わる機会がありませんので、今日はヨガをやっている人、画材のビジネスを営んでいる人、子どものいるお母さん、近所に住んでいる人など、いろんな人の視点があって面白かったです。僕達の同世代にもいろんな視点はあるけれど、それとはまた違う勉強になりました。自分の年齢の視点をみなさんに伝えられたのも良かったです」



30年間中学校の教員を務めたという町田在住の女性は、



「不思議な感じでしたね。なぜかこの公園に、これだけ大勢の人が興味を持ち、出会ったばかりなのに急に議論が始まって…というのが面白かった。大人も夢を見てるんだな、と感じました。最後にサグラダファミリアの話があったけれど、100年先、200年先のビジョンがあってやることと、目先のことだけ考えてやることでは、出来上がるものが違います。子や孫の代まで思いやってやるのが、いちばんのエネルギー源ですね。国や市がお金を出してくれたとしても、それがないと良いものにはならない。

今日話された、この不思議な泡のようなものが、重量のある確かなものになるには、もっともっと密度が詰まっていく必要があります。町田はやはり文化が弱い。イベントなどの一過性のものではなく、地味だけどグーッと詰まった、ずっと続くものを作ってほしいなと思います」



町田市民の大切な場所である芹ヶ谷公園。その未来について、行政、民間業者、市民のみなさんが現地で一緒にテーブルを囲み、年齢や立場を外して課題やアイデアを話し合えたことには、大きな意義があるのではないのでしょうか。大規模な公共事業において、すべての街がこうした機会を持てるわけではありません。

何より重要なのは、「私達の公園である」という自分事の意識。人口が減っていくこれからの時代、行政サービスは絞り込まざるを得ないことを前提に、さまざまな分野で民間・市民の自助共助の動きがますます必要になってきます。

これは逆に言うと、私達市民が自ら描く「こうしたい！」を社会や地域でどんどん発露し、つくりたい街をつくっていけるチャンスでもあるということ。**芹ヶ谷公園にも、町田のまちづくりにも、唯一の正解などないからこそ、立場を超えてみんなで考え続け、関わり続けることが、より良い未来につながるように**思います。

ここから始まる芹ヶ谷公園の整備プロジェクトについては、この「未来町田会議」のサイトでも引き続きお伝えしていきます。お楽しみに！

<https://machida.life>

